

(様式例)

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立出雲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ ベーシックタイムにより、たし算や引き算の基本的な計算の技能が概ね身に付いている。
- ・ 日常生活から問題を見出したり操作活動を取り入れたことで、意欲的に学習に取り組む児童が増えた。

(2) 課題

- ・ 基礎・基本を確実にするとともに、その力を活用する力を付ける必要がある。
- ・ 面積や重さ、長さを推察する等の量感に関する問題に誤答が多いため、身近な物に触れるなどの体験的活動を多く取り入れる必要がある。
- ・ 文章問題の読み取り、記述による表現、書かれている内容を理解して問題を最後まで解く力に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	▽たし算と引き算の正答率が高いが、かけ算とわり算の正答率が低い。 ▽図形の定義を問う問題の正答率が低い。		
第5学年	△数の相対的な大きさや表し方の正答率が高い。 △分数の計算の正答率が高い。 ▽角の大きさや割合の正答率が低い。	▽かけ算の正答率が高いが、余りのあるわり算の正答率が低い。 ▽図形の定義や特徴の知識を問う問題の正答率が低い。 (第4学年時)	
第6学年	▽小数や分数に関する問題の正答率が低い。 △比例に関する問題の正答率が高い。 ▽面積を求める問題の正答率が低い。	▽小数や分数に関する問題の正答率が低い。 △「数と計算」領域の基本的な計算問題の正答率は目標値を上回っている。 (第5学年時)	▽かけ算の正答率が高いが、余りのあるわり算の正答率が低い。 ▽身近にあるものの長さや重さを推察する問題の正答率が低い。 (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>▽分数の意味や大きさを数直線上に表す問題の正答率が低い。</p> <p>▽「数と計算」領域のかけ算やわり算の基本的な計算の正答率が低い。</p>	<p>▽式の意味を場面と結び付けること、式を読む問題の正答率が低い。</p> <p>▽単位の換算を理解して、説明することに課題がある。</p>	<p>▽問題を日常場面と結び付けて考えることに課題がある。</p>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>△比例に関する問題の正答率が高い。</p> <p>▽分数と小数の問題の正答率が低い。</p>	<p>▽割合、単位量当たりの大きさの問題の正答率が低い。</p> <p>▽記述式の問題の正答率が低い。</p>	<p>▽学習したことを活用して、日常生活の問題を考えることに課題がある。</p>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・計算カードを活用し、反復学習の習慣を身に付ける。 ・既習事項を必ず本時の最初に確認することで理解を深める。 ・ベーシックタイムの活用により、既習の計算を確実にする。 ・タブレット端末のドリル教材を活用し、基本的な計算技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を使い、体験を通して量感を養う。 ・ブロックなどの半具体物を活用して、問題文を正しく理解できるようにする。 ・問題文から分かっていることにラインを引く活動や自分の考えをノートに記述する時間を毎時間とる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常に関連付けた課題提示や算数カードなどのゲームを取り入れ、児童の興味関心を高める。 ・導入での課題提示の工夫やゲーム活動を取り入れ、児童の興味関心を高める。 ・算数を学ぶよさや有用性を、日常生活と関連付けながら振り返る時間をとる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックタイム活用し百マス計算や逆九九等を実施することで、四則演算の技能を確実に身に付ける。 ・単位換算は、単元の中で何度も反復練習を行い、知識を身に付ける。 ・新しい学習を行う際には、 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文の場面における、具体的な場面を確かめ、計算をイメージできるようにする。 ・半具体物を活用し、問題文に使われている数の意味を捉えられるようにする。 ・問題文の数にアンダーライ 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の場面に関連付けて課題を提示し、児童が必要感を感じることで、興味関心に結びつける。 ・百マス計算や逆九九で記録を付けることで、自身の記録を更新したいという意識を高め、積極的に問題に取り組めるようにする。

既習事項の確認の時間を設け、学習の理解を深める。	ンや印等を付けることで、それぞれの数の意味を明確に分類する。	・カルタやパズルなどを活用し、九九や図形などに親しみやすくする。
--------------------------	--------------------------------	----------------------------------

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックタイムを活用して日々、小数や分数の四則算に慣れていく。 ・多角形の作図では、実際に作図をしながら、定規、コンパス、分度器等の正しい使い方を身に付ける。 ・数直線の書き方や、数直線をもとにした数量の関係の見方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の面積や体積、作図に関係する単元では、公式を導く過程で、図形を構成する要素、それらの位置関係などに着目させ考えるようにしていく。 ・デジタル教科書やITC機器を活用し、形を多角的に判断できるようにする。 ・割合に関係する単元では、常に1あたりの量に着目させていく。立式の根拠も、数直線で捉えさせ、必ずもとにする1から考えてかけ算から数量の関係を捉えさせるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元や毎時間毎の終末では、習熟度にあった適用問題や振り返りをするようにし、「できた」「分かった」を価値付けていく。 ・日常の生活や他教科、既習事項との関連を踏まえながら、見通しをもって、自分の考えを伝え、主体的に取り組めるようにする。